

# 地域と大学

第13号

Newsletter No. 13, Center for Education and Research of Lifelong Learning

## 成熟社会における大学開放

静岡大学生涯学習教育研究センター長 松田 純

先日かつての友人と久しぶりに話す機会がありました。彼は教員をしながら、ある町で地域住民と協力して「私塾」を立ち上げ、さまざまな分野の著名な専門家も招いて公開講座を運営しています。みずからも一教室を担当し講師を務めています。テーマは地域の歴史から日本の近代化、さらには最新の宇宙論までと多彩です。講師と塾生との質疑応答録を見て、そのレベルの高さとセンスの良さに驚きました。

このような市民の自主的な学習活動はいま全国いたるところで起こってきています。なかにはすでに30年以上の歴史を刻んでいる会もあります。それらの内容と目的はさまざまでしょうが、総じて「学びたい」という人間としての本質的な欲求に根ざすものです。アリストテレスも言うように、「人間は生まれながらにして知ることを欲しています」。

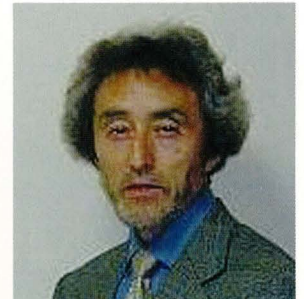
けれどもいまの“生涯学習熱”をこの本源的な欲求だけで説明しきることはできません。それは成熟社会に向かう力強い歩みとも言えます。経済的な価値のみが志向される時代には、ハウツー物が隆盛です。いまも実学志向は根強いですが、人々はもっと広く深い教養を求めています。爛熟した消費文明のなかで、人間として最も基本的な価値に飢えているようにも見えます。技術文明の隆盛のなかで、いま本当に人間らしい生き方とは？ 高度医療のなかで人生の最後をどう締めくくるべきか？ そもそも生きるとはどういうことか？ こうした根源的な問いへの答えを多くの人が模索

し始めているようにさえ感じます。

本年4月より国立大学は法人化され、静岡大学も「国立大学法人 静岡大学」として生まれ変わりました。いままでどちらかと言うと世間に疎かった大学も、これからは社会としっかり向き合って生きていかなければなりません。全国の国立大学法人では、研究をビジネスに結びつけるなど、さまざま新しい試みが始まっています。けれども狭い実学志向からの事業展開にのみ眼を奪われ、社会の側の成熟にかえて遅れをとるようであってはなりません。

奇しくも本年4月より、法人化された静岡大学で最初の生涯学習教育研究センター長を務めることになりました。社会の構造や価値観が大きく変わって行こうとする転換期に、社会に学びながら、「いま本当に求められているのは何か」を問い続け、社会と大学がともに成熟していける道を求めたいと願っています。

法人化によって大学側の自由度が増した面を活かして、公開講座等の形態についても抜本的な改革に取り組んでいます。おそらく来年度の公開講座は新しい仕様で展開されるでしょう。9月に開設される静岡市産学交流センターB-nestビネストにおいても、ビジネス支援講座などさまざまな地域連携活動を計画しています。こうした活動にみなさまのご支援とご協力を頂ければ、誠に幸いです。



## 開学55周年記念 公開講演・シンポジウム「21世紀、新しい知をめざして」

日 時：平成16年6月12日(土) 13:00～16:30  
会 場：しずぎんホール・ユーフォニア（静岡市追手町1-13アゴラ静岡8F）

記念講演：21世紀の課題－地球環境・生命・人間－  
加藤尚武氏（鳥取環境大学長）

パネリスト：加藤尚武氏、晝馬輝夫氏（㈱浜松ホトニクス社長、全学同窓会長）、天岸祥光静岡大学長、中田紘二氏（㈱ユニックス社長）、南健悟氏（静岡大学生）



パネルディスカッションの会場風景

本年度より発足した「国立大学法人 静岡大学」の新たな出発と静岡大学全学同窓会の発足を記念したシンポジウムを開学55周年に合わせて開催しました。第I部の加藤氏による記念講演では、グローバルな視点から、いま学術に求められている人類的課題についてお話し頂き、第II部のパネルディスカッションでは、地域の産業・文化・環境と大学がどう関わっていくかを討論しました。中

でも文理融合論が議論の多くを占め、本物を追求する姿勢を持つ学生の育成、暗黙知を持ち得る教育を求めるといった意見を頂きました。天岸学長からは「新生静岡大学の進む道」と題して教育や地域連携の充実を強調すると共に、静岡大学が率先して道筋を開こうとしている法科大学院についての説明もありました。約170名の参加があり、フロアからも活発な意見を頂きました。

## 平成16年度静岡大学公開講座が開講

今年度の静岡大学公開講座は、一昨年からはじめた静岡キャンパス会場での実験・実習講座を含めて、四会場で実施することになりました。次ページの表のように、静岡大学浜松（城北）キャンパス会場・静岡大学静岡（大谷）キャンパス会場・静岡清水地区会場・沼津会場の各会場です。

この公開講座のうち、静岡大会場の2講座が終了しました。浜松キャンパスでは現在開催中の浜名湖花博に合わせ、静大教授の他、学外からも花博総合プロデューサー・賀来氏や造園コーディネーター・二宮氏をお招きし、花博を多様な視点から学びました。静岡キャンパスでは、高校生らが化学実験を3日間根気強く行い、大学ならではの器具を用いた実験に新しい発見が多かったようです。

お知らせ：今年度から一回限りの受講もできるようになりました。申込期間後でも、講義直前まで受付します。この先生のお話は聞きたいという方も、初めてだけれど一回試しに聞いてみようという方も、間に合う講座には是非足を運んでください！



静岡大学（静岡キャンパス）会場での化学実験中の受講生



静岡大学（浜松キャンパス）会場での講義風景

地 区	静岡大学 (浜松キャンパス) 会場	静岡大学 (静岡キャンパス) 会場	静岡 (清水地区) 会場	沼津会場
講座名称	園芸と浜名湖花博	未知の世界に挑戦! 物質の基礎を探索する化学実験	政令指定都市 —新生静岡市の未来	富士山のむかしといま
共 催 後 援	後援：静岡県・(財)静岡国際園芸博覧会協会・浜松市・浜松市教育委員会	後援：静岡県教育委員会	共催：静岡市教育委員会 後援：静岡市	共催：沼津市教育委員会
会 場	静岡大学城北キャンパス	静岡大学大谷キャンパス	静岡市清水中央公民館	沼津市民文化センター
開設期日	7/17、24、31、8/7(土)、8(日)	8/2(月)、3(火)、4(水)	8/28、9/4、11、18、25(土)	8/28、9/4、11、18、25(土)
時 間 数	全5回各2時間・計10時間	全3回各5時間・計15時間	全5回各2時間・計10時間	全5回各2時間・計10時間
開設時間	14:00～16:00	10:00～16:00	14:00～16:00	14:00～16:00
講 習 料	5,000円	2,100円 (+保険料)	5,000円	5,000円
受付期間	6/21(月)～7/2(金)	7/5(月)～7/16(金)	8/2(月)～8/13(金)	8/2(月)～8/13(金)
受付場所	静岡大学研究協力課地域貢献係 (tel.054-238-4317)			
講座内容	浜名湖花博にちなんで、花の博覧会の歴史と意味を振りかえり、生活と密着した園芸の意義を考えます。 講師：賀来宏和 (花博総合プロデューサー)、二宮孝嗣 (造園コーディネーター)、高松良幸 (情報)、高橋直行・鈴木久男 (工)、大川清 (農)  <講座終了>	分子の性質を観るための化学実験。普段みられない大学の実験授業体験! ①ナフタレンの分子構造を探ろう ②過酸化水素の活性化エネルギーを測ろう ③電気抵抗ゼロの超伝導物質を合成しよう 講師：近藤満 (理)  <講座終了>	静岡合併から政令指定都市へ。何がどう変わるのか?市民の力で築く、新しい文化とぬくもりのある町を考えます。 講師：川瀬憲子・上利博規 (人文)、本阿弥清 (虹の美術館)、都築はじめ (静岡県演劇協会)、白井嘉尚 (教育)、日詰一幸 (人文)、佐藤克昭 (財)静岡経済研究所、杉本彰子 (生き生きネットワーク)、鍋倉伸子 (清水ネットコアメンバー)	駿河東部の地形と植生など自然の特徴を知り、富士山の環境保護と防災のこれからを考えます。  講師：小山真人 (教育)、増澤武弘・和田秀樹 (理)、杉山恵一 (富士常葉大学)、鶴川元雄 (防災科学研究所)

## 公開シンポジウム「大学と博物館を結ぶ⑦～最近の新しい博物館活動～」

日時：平成16年7月10日(土)13:00～16:00

会場：静岡大学共通教育A棟301室 (静岡)、情報学部会議室 (浜松)

講師：静岡会場；小川弦太 (兵庫県埋蔵文化財事務所)  
森 充代 (静岡県立美術館)  
佐渡友陽一 (日本平動物園)  
浜松会場；福井麻純 (財)細見美術館)  
村瀬正巳 (浜松市楽器博物館)

今年度の「大学と博物館を結ぶ」シンポは、静岡・浜松間

をテレビ会議で結び、「博物館における最近の新しい活動」に焦点をあて、地域や利用者のニーズに応えるリクエスト展や教育普及事業等について考え、新しい博物館への意識を高める機会とするため実施しました。厳しい社会情勢の中、観覧者を呼び込むための学芸員の手法や博物館に対する思いを目の当たりにした時間となり、作る側としての視点を実感しました。当日は学芸員志望の静大生だけでなく県内博物館職員や静岡文化芸術大学生の参加もあり、静岡会場・浜松会場合わせて148名の方々に参加いただきました。



静岡会場パネリストと浜松会場を結ぶテレビ中継



公開シンポジウム会場の参加者

## 「平成15年度 静岡大学による市民向け講座等の社会貢献活動報告」発刊!

生涯学習教育研究センターでは初めて、平成15年度に静岡大学が行った市民向け講座等の社会貢献活動を集約した冊子を発刊しました。昨年1年間で高校への出張授業または学部説明等は110回以上、公開講座や講演会、シンポジウム等の開催は45件のべ250余にのぼります。静岡大学は今後とも地域のさまざまな団体と連携しながら、

生涯学習教育への要望に積極的に応えていきたいと考えております。講師派遣の依頼や相談の際などに本冊子を活用して頂ければ幸いです。興味・関心のある方々に無料でお送りいたしますので下記までご連絡ください。

申込み・問合せ：生涯学習教育研究センター  
Tel&Fax 054-238-4817

## 富士川町で静岡大学特別公開講座

平成15年度から行っている富士川町での特別公開講座。今年も、富士川町が江戸時代から申年ごとに富士山の頂上へ鳥居を奉納する「岩淵鳥居講」という民俗行事があることにちなみ、すべての講座を富士山と絡め、以下のように実施しました。

前期「富士山・富士川をめぐる文学と信仰」19:00～21:00

6/23(水)	古典文学にあらわれる富士山 関根賢司 人文学部教授
6/30(水)	和歌に詠まれた富士山・富士川 関根賢司 人文学部教授
7/7(水)	富士山と近現代文学—大岡昇平「愛について」と武田泰淳「富士」を中心に— 池田純益 教育学部教授
7/14(水)	富士山と江戸の人々 小二田誠二 人文学部助教授
7/21(水)	富士山をとりまく経塚 柴垣勇夫 生涯学習教育研究センター教授

後期は陶磁器の歴史や窯業地の分布、産地の見分け方など基礎的な講義を、遺跡と施設見学も含めて生涯学習教育研究センターの柴垣教授、人文学部篠原和大助教授および見学先の学芸員によって行われる予定です。

### 後期「陶磁器の歴史と鑑賞」

講義19:00～21:00、見学10:00～17:00

9/16(木)	日本の陶磁器の歴史 柴垣勇夫 生涯学習教育研究センター教授
9/18(土)	登呂博物館と静大キャンパスミュージアム・見学 柴垣勇夫 センター教授、登呂博物館学芸員
10/6(水)	土器のはなし 篠原和大 人文学部助教授
10/13(水)	陶器の産地の見分けかた 柴垣勇夫 生涯学習教育研究センター教授
10/16(土)	愛知県陶磁資料館・見学 愛知県陶磁資料館学芸員

### ユースカレッジ青少年リーダー育成事業の実施

静岡県教育委員会青少年課と共催の「ふじのくにユースカレッジ」(青年リーダー育成講座)の研修講座を、今年も下記の日程で平成16年6月12日から平成17年2月19日まで10回に渡り行います。IV期生には募集人数を上回る49名が応募し、地域活性化に向けた研修・事業体験・地域イ



地域活動についての意見交換会

イベント準備・地域イベント実施という4段階のカリキュラムで、各々が地域リーダーとしてのノウハウを培います。



8月7日 静岡市清沢地区で棚田実習

構成	年月日・会場	タイトル
地域活性化に向けた研修	1 6/12(土)10:00～12:00 静大大会館	開講式
	2 6/26(土)10:00～12:30 静岡市NPOセンター	NPO研修
	3 7/17(土)13:00～16:00 県庁内会議室	地域活動についての意見交換会
事業体験	4 8/7(土)10:00～15:00 静岡市清沢地区	地域おこし事業視察
	5 平成16年度7～9月 各地域のNPO	NPO実習
地域イベント準備	6 9/11(土)13:00～16:00 静大大会館	地域実践活動に向けて①
	7 10/9(土)13:00～16:00 静大大会館	地域実践活動に向けて②
地域イベント実施	8 平成16年10～12月 各市町村	地域イベントへの参加
	9 1/15(土)13:00～16:00 県庁内会議室	まとめ
	10 2/19(土)10:00～12:00 静大大会館	閉講式

#### 今年度センター運営委員

委員長 松田 純センター長  
 センター教員 柴垣勇夫 センター教員 阿部 耕也  
 人文学部 湯之上 隆 教育学部 石井山竜平  
 情報学部 白井靖人 理学部 近藤 満  
 工学部 鈴木久男 農学部 高木敏彦  
 電子工学研究所 松本晃一 大学教育センター 佐藤龍子

生涯学習教育研究センターでは、学内の公開講座情報、大学開放事業などを掲載し広報します。最近の計画、将来計画をセンターまでお寄せ下さい。  
 ホームページ <http://www.shizuoka.ac.jp/~cerll/>

## 地域と大学 第13号

静岡大学生涯学習教育研究センター情報誌

平成16年8月31日発行

〒422-8529 静岡市大谷836 (理学部B棟1階)  
 静岡大学生涯学習教育研究センター  
 TEL 054-237-1111(代)  
 TEL/FAX

054-238-4817(資料室・受付)  
 事務局 静岡大学研究協力課地域貢献係 TEL054-238-4317